

神奈川 DWAT 本部立ち上げ訓練報告

事務局 災害対策部 下田栄次

2026年2月25日、神奈川県社会福祉センターにおいて「神奈川 DWAT（災害派遣福祉チーム）本部立ち上げ訓練」が実施されました。本訓練は、県内での大規模災害発生を想定し、神奈川 DWAT 本部の設置、運営、および隊員の派遣フローを実践形式で確認することを目的としたものです。本会から2名が参加し、情報班とロジスティクス（ロジ）班を担当しました。

■ 4 班体制による本部機能のシミュレーション

神奈川 DWAT 本部は神奈川県社会福祉センターに設置し、総務班、情報班、派遣調整班、ロジ班の4つの班で構成されています。訓練では、発災直後の初動対応から、県・県社会福祉協議会との本部設置決定の連絡調整からリエゾン（※）の派遣、活動マニュアルに沿った本部の立ち上げ手順の確認と行動計画の検証を行いました。

（※）リエゾン

災害時に異なる組織や本部との間で情報を共有し、円滑な連携を図るための「連絡調整員（橋渡し役）」

1. **発災と本部立ち上げ**：情報の収集と各班の役割分担の確立
2. **かながわ災害福祉広域支援ネットワーク緊急会議**：オンライン形式で被災状況や構成団体の動向確認から支援ニーズの集約を行い、支援の「抜け・重複」をなくすための調整を実施
3. **派遣の決定と準備**：チーム員の派遣待機依頼から、先遣隊の編成、派遣決定までのフロー確認
4. **参集とオリエンテーション**：DWAT 本部への参集、資機材の確認、活動方針、活動概要、タイムスケジュール・安全管理に関するオリエンテーションの実施

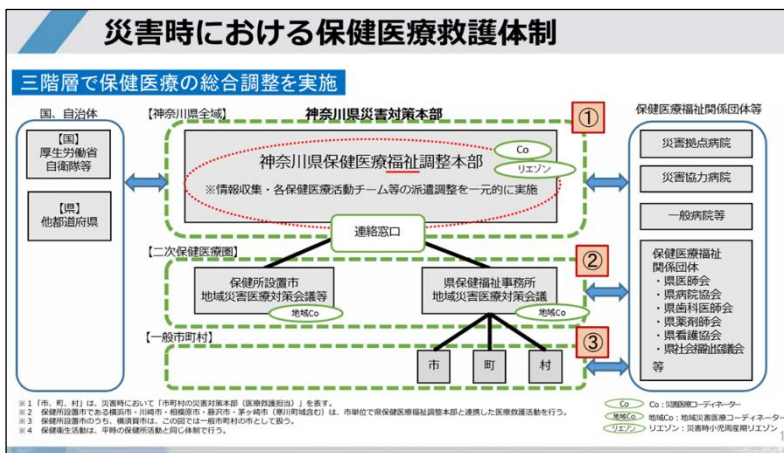
■ 現場感覚を養う具体的な気づきと課題

情報班として活動する中で、各地から寄せられる被害情報の集約、時系列で活動を記録する「クロノロジー（時系列活動記録）」の作成、および帳票類への正確な記載がいかに重要であるかを確認することができました。また、ロジ班では、隊員の移動手段（車両）や宿泊地の確保、資機材のセットアップなど、活動を支える基盤整備の複雑さを学びました。特に有意義だったのは、先遣隊のメンバーとの連絡、時間調整のシミュレーションができたことです。オリエンテーションでの伝達事項、派遣先の地域で活用する帳票の記載内容を精査するなかで、現状の体制における細かな課題も具体的にみえてきました。

■ 保健医療福祉の連携「第2層」への視点

今回の訓練の中で、派遣元から派遣先への移動経路だけでなく、第2層（二次医療圏域の保健所が災害時に設置する「保健医療福祉調整本部」）のへアクセス確認を行いました。災

害時において、DWAT は保健師等の他の支援チームと連携し、要配慮者のアセスメントやスクリーニングを行う役割を担います。調整本部への移動経路や連絡体制を可視化できたことは、発災時の迅速な行動に直結する重要な成果であったと感じています。



■ 神奈川 DWAT の確かな前進

非常に有意義で実り多い訓練であったと感じています。各班の役割が明確になり、実務レベルでの手順を確認できたことで、神奈川 DWAT としての組織力はかなり前進したのではないのでしょうか。能登半島地震の教訓からも、発災初期の迅速な福祉的支援の重要性はますます高まっています。私たち理学療法士も、災害時には被災者の生活機能の支援を中心に行う専門職として、DWAT の一翼を担い、生活不活発病などの二次被害を防ぐ重要な責務があります。今回の訓練でみえた課題を整理し、平時から顔の見える関係性を築いておくことが、もしもの時の「力」になります。

今後もこうした訓練を継続し、会員の皆様と共に、災害に強い神奈川県における体制づくりに貢献していきたいと考えています。

